

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

（別紙5）

事業所名	こども発達支援ハウス 叶（放課後等デイサービス）	公表日	令和8年3月31日
------	--------------------------	-----	-----------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	障がい特性に応じて各部屋に振り分けて活動を行っている。	部屋数が多いため、確認頻度が多くなる。施設の立て直しを検討している。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	送迎時に人手が足りなくなるが、多機能施設なので会社全体で協力し不足を補っている。	下校時間や、学校行事により送迎が難しいこともあるため、保護者への協力や、学校を絞ることも検討に入れる必要がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	子どもの障がい特性に合わせて玄関を2か所にしたり、1階と2階の連携のためトランシーバーを用いて速やかな連携を行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の次亜塩素酸での消毒・掃除を行い、風通しを良くしている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	部屋数があるため、細やかな配慮が出来る。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	長期休暇などでは研修が難しいが、毎日のミーティングで共有している。	長期休暇中、職員の勤務時間も異なるため、引継ぎを徹底して行うことを継続する。もしくは質の担保のため閉所日をつくることも検討する。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	必ず業過結果をもとに職員会議を行い、改善に努めている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	月1回の会議を行い把握に努めている。	
	9 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	月1回の会議を行い把握に努めている。また、研修等も月1回外部委託し、他にもZOOM等で研修を行っている。	
適切	10 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	ホームページ、HUGシステムで行っている。	
	11 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	月1回のカンファレンスで情報共有と個々の目標設定を精査している。	
	12 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0		
	13 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	個別支援計画の目標を1枚の書類にまとめいつでも見れるようにしている。	
	14 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2		事業所独自のアセスメントツールがないため、今後はVineland-II（適応行動尺度）などを用いて信頼と妥当性をブラッシュアップしたい。
	15 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	16 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	月1回の企画会議で全員の意見を取り入れている。	

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	継続は力なり。毎日利用が多いわけではないため、利用日数等を考慮し、良い意味での固定化はしている。	
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別で学び集団に汎化する療育が叶う特徴です。	
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	必ず30分かけて内容、子どもの状況把握、支援の仕方、スタッフの動きについて行っている。	
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4		支援終了時は送迎後のため、重要事項のみ共有し、翌日話し合いを行う。しかし質の担保には終了時間も考慮しなければいけないかと考えている。
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	HUGを導入してからその日のうちに写真と記録にて忘れないうちに保管している。	特記は翌日のミーティングにて共有している。
	22	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	23	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	2	①自立支援と日常生活の充実②創作活動④余暇の提供は補えている。	③地域交流の機会の提供は、地域特性と、「ふれあい市」延期（道路工事）のため難しいが、機会が整ったらまた再開する予定。
	24	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	6	0	選択肢の用意と、その時の状況を代弁することで行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	必ず情報提供書を作成し参加している。	
	26	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	福祉のみでの会議開催が多いため、出来るだけ学校をいれるようお願いしている。	医療は連携がとれやすいが、福祉と教育の連携がもっと必要である。
	27	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	送迎時に確認する内容を書式にまとめ、確実に引継ぎができるよう努めている。	学校は保護者を経由することを基本にしているため、保護者との連携やスクールソーシャルワーカーとの連携を意識して行っている。
	28	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0		移行支援会議がほとんどないため、保護者、相談員からの聞き取りを細かく行っている。
	29	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	6	移行支援会議に呼ばれることは少ないが、情報提供書を作成し保護者に渡している。	もっと移行支援会議に参加できるような地域のシステムを構築してほしいと考える。
	30	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	6		専門家の研修を受けているので、特に行っていない。
	31	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	同施設の放課後等デイサービスとの連携を図っている。	地域がらこどもが少ないため難しいが、図書館などの公共施設やできるだけ鳥栖市のイベントに参加するようにしている。
	32	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	皆勤賞です。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	HUGシステムで写真や行動記録で伝えたり、足りないところは電話や送迎時に伝えている。		
34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時には行っている。		

保護者への説明等	35	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	言語化できるこどもには1対1で年間目標設定を話し合い、計画に反映している。	
	36	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		
	37	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	HUGへのコメント、ありがたいです。	
	38	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	39	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HUGやInstagramを使用している。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	41	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	構造化や計画相談員、学校との連携によって行っている。	
	42	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		月1回行われていた「ふれあい市」を道路工事のため一時中断しているので難しい状況。落ち着けばまた再開予定である。
非常時等の対応	43	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2		施設に掲示していても、事業所送迎の為保護者が確認する手段がない。そのため、HUGシステムを導入し、周知できるようにした。
	44	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	動画や実践でおこない、イベントなどにも参加して学んでいる。	
	45	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に行っている。	
	46	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	手作りおやつのため、契約時の確認は怠らない。	
	47	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	外部研修の中で、ヒヤリハット事例などをとらえて研修、実施している。	
	48	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	施設に掲示していても、事業所送迎の為保護者が確認する手段がない。そのため、HUGシステムを導入し、周知できるようにした。	
	49	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0		
	50	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	51	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体安全の確保、施設による飛び出し注意など、説明したうえで記載、もしくは業務日報に記している。	